

# 【河川】阿武隈川改修100周年事業プレイベント第3弾 平成10年災害から20年 座談会「郡山・須賀川・本宮地区」開催！

平成31年2月14日  
福島河川国道

## 1. 概要

- 平成10年8月末洪水及び9月台風5号洪水による甚大な被害が発生した「平成10年災害」から20年が経過しました。
- 「平成10年災害」を忘れてはならない教訓として次世代に語り継ぎ、大規模氾濫時の避難を含めた今後の対応について考えるきっかけづくりを目的として、平成31年2月14日に郡山・須賀川・本宮地区の座談会を開催しました。
- これまでに伊達地区・阿武隈川上流地区で開催しており、今回が3地区目の開催となります。次年度は、白河地区及び福島・二本松地区の2地区で開催する予定です。

## 2. 開催概要／実施状況

- 日時：平成31年2月14日(木)14:00～16:00
- 場所：郡山市役所 2階 正庁
- 出席者：郡山市長、本宮市長、須賀川市副市長、福島県、福島河川国道事務所長ほか計13名
- 参加者：約60名

## 議事内容

- (1)平成10年災害の振り返り
  - (2)平成の大改修をはじめとした平成10年災害後の取組み
  - (3)これからの阿武隈川を考える
- ※別途、議事録を公表する予定です。

## 3. 主なご意見・コメント等

- 【品川萬里 郡山市長】**
- ・全流域で共通なのは「川幅を広げ、河川敷の樹木伐採」をすると河川の包容力が増すということ。今回、樹木伐採していただくとのことで大変感謝している。
  - ・災害の時だけでなく、平素から川とは何かを考えて川を見ていかなければならない。
- 【高松義行 本宮市長】**
- ・「正しく恐れて、正しく遊んで、正しく親しめる」そんな阿武隈川にしていかなければならない。
  - ・人と川が親しめる環境を作っていこうと「かわまちづくり」を進めている。
  - ・「川を楽しむ」ことと「防災に対する意識」は違うこととらえるのではなく、同じ土俵で考えて行かなければならない。
- 【石井正廣 須賀川副市長】**
- ・浜尾遊水地は面積62ha、地権者123名の方々の協力で優良な先祖伝来の貴重な農地を提供いただいたもの。下流の被害軽減効果はそういった地権者の思いの上にあることをお知りおきいただければ。
  - ・浜尾遊水地における平常時の利活用方法について検討している。自然・川との共生を目指していく。
- 【その他】**
- ・平成10年洪水で消防団で夜通し排水作業を続けたが、排水ポンプ車の燃料の確保に苦労した。
  - ・水防団は消防団との兼務。防火訓練だけでなく、水防工法を日頃から訓練して行くことが重要。
  - ・自主防災組織で、図上及び現地での避難訓練を毎年実施。続けることで住民が防災を考えるようになるのでは。
  - ・散歩やランニング、サイクリングなど、川と健康をからめて川に親しんでいただければ。



座談会の様子



郡山市 品川市長



本宮市 高松市長



須賀川市 石井副市長



福島県 堀田 福島県 県北建設事務所長



福島県 佐藤 福島県 県中建設事務所長



郡山市 小川 中央工業団地会 会長



郡山市 柳内 消防団本部 前交通部長



門馬 区長会連絡協議会 副会長



本宮市 國分 消防団長



須賀川市 有賀 愛宕町 町内会長



須賀川市 円谷 消防団 訓練部長



須賀川市 斉藤 須賀川市の 防災を考える会 事務局長



小浪 福島河川国道事務所長

